

研究結果報告書

研究結果

本研究の目的は、タイ北部と中部の中等教育機関において、第二外国語として日本語を学ぶ視覚障害者の一助となるよう、以下の3点を実施することである。

- ① 日本語教育現場における視覚障害者と教師からの情報収集。
- ② 視覚障害者のための日本語教授法についての教師研修を実施する。
この際、日本点字を取り入れた指導法と利点も紹介する。
- ③ 日本語教育指導に役立つ日本点字に関する情報を集めたタイ語の本を作成後、希望する教育機関に無料配布する。

現場からの情報収集として、生徒が日本語を一週間に6時間程度学ぶ日本語コースを開講している北部（ランパーン県1校、チェンマイ県2校）と中部タイ（バンコク都2校）の中等教育機関での授業見学や学習者や教師へのインタビューなど、それぞれの機関で実施可能なものを適宜行った。バンコク都では上記2校とも口頭と日本点字を併用した指導を行っていたのに対し、北部の学校では、日本点字が使われていたのがランパーン県の1校のみであった。日本語指導用教材は、上記調査校5校のうち3校が、『あきこと友だち』、その他の2校は『みんなの日本語』であった。

教師側から見た視覚障害者に対する日本語教育指導での教育システム上の主な課題としては、クラスのサイズが大きい（約40人前後）、指導が不十分ということが挙げられた。

視覚障害者への日本語教育指導上、教えにくい文法項目としては、「やりもらい」、「自動詞・他動詞」、「動詞の活用（て形のコンセプトなど）」などが挙げられた。また、教えにくい語彙の種類は、「色」や「漢字」などが挙げられた。

「視覚障害者のための日本語教授法」の教師研修の実施であるが、タイ北部（ランパーン、参加者18人）で一回、タイ中部（バンコク、参加者22人）で一回実施した。こうした結果のようなトピックでの教師研修が、今までタイ国内で開催されることがなかったため、「教師同士の情報共有の場として非常に有意義だった」というコメントが多数あり、研修の内容も好意的に受け止められた。

日本語教育に役立つ日本点字の情報を集めたタイ語の本は、現在初校を校正中である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

- ・ ティーラット・ロムスィー、高塚直子「視覚障害のある生徒への日本点字を用いた日本語教育支援ーランパーンカラヤニー校のケースからー」国際交流基金バンコク日本文化センター主催第五回タイ国日本研究会 (2011年10月タイ国ソクラーナカリン大学プーケット校にて)
- ・ ティーラット・ロムスィー、高塚直子「視覚障害のある生徒への日本点字を用いた日本語教育支援ー北部タイ中等教育機関のケースからー」タイ国教育省主催第35回教育基礎局教育実践研究会 (2012年9月タイ国ランパーン県障害者教育センターにて)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

- ・ 『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要第11号』に本研究の内容をタイ語で投稿予定 (締め切り: 2014年3月、内容審査後の掲載予定2014年9月)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期)

題名: อักษรเบรลล์ญี่ปุ่น (日本点字)

著者名:

Thirat Lomsri

Naoko takatsuka

出版社: P.P.Center

46/2 Rassada Rd., T.Viang nuea A.Muang Lampang 52100

発行時期: 2014年度前期